

グループホーム金泉(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を作成し、職員会議開催時復唱、確認している。	管理者、職員は理念を毎日の暮らしの中で、実現化されるよう話し合い、取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事(祭り・清掃等)には積極的に参加している。車椅子無料貸出を行っている。	敬老会、商工会の祭り、とんど、清掃活動、保育園の子供との交流など地域の一員として参加されて交流を深められている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	定期開催している運営推進会議に参加して頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の議事録を開示し入居者、家族に知らせている。	運営推進会議には民生委員、地域の方、家族、包括支援センターの職員、施設長、職員の参加があり、近況報告、行事報告をされ熱中症対策などの話し合い、野菜つくりの話や聞くなど参加者からの情報を取り入れて、議事録は家族に知らされている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括会議に出席し、行政との連絡調整し情報を得ている。	包括支援センターとは連携し研修の情報や、入居者の利用状況の問い合わせなど連絡が取られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内の勉強会を開催し、自己学習の促しを行い取り組んでいる。	月一回の会議や自己学習でも身体拘束のないケアに取り組まれている。日常生活でエレベーターは自由に使われ、鍵をかけない生活があり、職員の安全面に配慮したケアは入居者の落ち着いた生活が過ごされている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等に参加している。		

グループホーム金泉(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	外部研修への参加、事業所内での勉強会を行い理解に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	意見を伺い充分な話し合いをし、理解・納得して頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	話し合いを行い、迅速に対応できる様に努めている。	面会の際、家族と話し合い、その都度要望を聞き、全職員でできる限り対応されている。来れない方には電話などで要望や意見を聞き、即対応がされる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回代表者会議を行い意見交換等行っている。	毎月の会議は意見交換をされ(話しやすい雰囲気)全員の意見が反映されるよう取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が個々に目標を立て、向上心を持ちながら一緒に働ける様に努力している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月1回勉強会を行い外部研修への参加を勧めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センターとの交流がある。		

グループホーム金泉(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	個別に関わる時間を多く設けている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	初回の面接時、細かく話を伺い、適切な対応ができる様努めている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	必要とされる事に対し柔軟な対応ができる様努めている。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	毎日の食材買い物・調理・片付け一連を一緒に行き、昼食は全員で食べている。		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	日常生活において「共に過ごす時間」を積極的に設けている。		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	馴染みの美容院・スーパーは継続利用している。	家族と相談し入居者の希望があれば馴染みの店、美容院に行かれる。墓参りに行かれる事もあり相談しながら支援される。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	入居者同士が良好な関係が保てる様個々の状態把握に努めている。		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	必要時には対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用し、希望・発言はそのまま転記し参考になっている。	全職員が入居者一人ひとりの(何がしたい)意向を把握し、その方の持つ力を見い出す取組みがされている。	思いや、暮らしの希望を入居者本意の対応がされコミュニケーション(入浴、食事、茶の時)の場で一つ一つの言葉を聞き、思いに関心をよせ、センター方式の活用で意向の把握につながると期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	業務日誌、個別生活記録を記入し把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンス・モニタリングを定期的に行い、介護計画作成時参考になっている。	入居者、家族の意見を聞き、職員全員でどのように支えるかを考え、入居者本位の介護計画が作成される。	家族の意見や要望も聞き、面会時には身体状況を伝え、入居者のもっている力を出せる暮らしができるよう、現状に即したケアに取り組まれることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別生活記録を細かく記入している。夕方、職員ミーティングで情報共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同敷地内デイサービスの温泉・マッサージ器を利用している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の状態把握に努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週1回主治医による訪問往診がある。入居者独自にかかりつけへ受診している。	入居者、家族の希望のかかりつけ医での受診、主治医の一週間に一度の往診があり、医師との連携体制があり、入居者の状態把握をし、変化があれば連絡し適切な医療が受けられるよう支援される。	

グループホーム金泉(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	報告・相談しアドバイスを得ている。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院に行き、担当医・看護師から情報を得ており迅速な対応ができる様努めている。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	家族・主治医・職員とできるだけ早い段階で充分話し合いをし対応に備えられる様努めている。	日ごろから家族の考えを確認し、家族の希望があれば応じられるよう医師の指示に従って相談しながら方針を共有されている。	これまでに看取りの場面を経験はされていますが職員体制によっては出来ない場合もあり、職員全体の看取りに向き合おうとされる思いは、これからの事業所の取組みに期待します。
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	マニュアル作成し、消防による指導、勉強会を行っている。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	避難訓練を定期開催し、地域の方にも参加を呼び掛けている。	定期的な避難訓練を消防署の指導のもとに行われる。地域の方の協力がえられるよう、参加を呼びかけて取り組まれている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	充分に理解した上での言葉かけや対応に努めている。	一人ひとりの尊厳を守る配慮、言葉遣い、接遇などに一番気をつけて対応されている。自然体で見守り、その方に合った声かけがされている。	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>	個別で話をする時間を設けたり、密な関わりをもっている。		
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	一人ひとり希望に沿った、充実した1日が過ごせる様に声を掛け、生活リズムに配慮する様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時の服装選び、肌・髪のカケア、髪型等一緒に考え支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	四季の旬な食材を活用したり、週1回リクエストメニューとして個別に献立を立てている。食事の買い物から片付けまでの一連を一緒にやっている。	買い物で食材を選び共に調理をされ、職員と一緒に食事をする中で会話が弾み、美味しいと声が出ている。アレルギーに関しては別のメニューを作られている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士のアドバイスを得ている。1日の水分量は個別記録に記入し把握できる様努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。歯科医による助言・指導を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別生活記録に記入している。日中・夜間と排泄パターンを変える等工夫し自立支援に努めている。	状況(言葉、動作)を見ながら声かけをし、誘導され排泄の自立支援がされている。個人の排泄記録に関する情報は職員は共有し記録されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事の工夫、水分、運動、マッサージ、乳製品の摂取等行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望・体調・気持ちに配慮し、声掛けいつでも入浴できる様準備している。	毎日、いつでも、入居者の希望される時、入浴することができる支援がされている。希望があれば露天風呂の入浴もできる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	環境づくり、日中の活動、寝具、室温調整、水分補給等工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を一覧にし、閲覧し確認・理解できる様にしている。		

グループホーム金泉(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	センター方式を活用・参考に行っている。個別に声を掛け理解に努めている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、買い物、ドライブは積極的に行っている。野球観戦、牧場見学、外食等一人ひとりの希望に沿える様になっている。	一人ひとり、その方の力を見極め、毎日買い物、近隣のお寺、商店街、散歩、ドライブ花見、外食、に入居者の希望を聞き外出支援がされている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支払い時お金を手渡し、一連の動作ができる様支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には電話を掛けている。年賀状は毎年出している。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は、清潔・衛生・美化に努めており、季節の花・植物を採り入れる等環境づくりに努めている。	広いウッドデッキやリビングからの眺めは山や畑から四季を感じられる。一階リビングでは入居者の三味線に合わせて手をたたき歌がでている。居心地の良い居場所があると感じました。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	サンルーム・掘りごたつ・応接室で、ゆっくり自由に過ごせる場所づくりをしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのある、食器類・家具を持ち込んで設置している。	自宅から持ち込まれた家具や馴染みの物品が持ち込まれて落ち着いた配慮がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室内・共有スペースの掃除は職員と一緒にしている。		